

「農業技術の匠」：<sup>よしむら</sup>吉村 <sup>ひとし</sup>人志さん（長崎県佐世保市）  
～ 花のオリジナル品種と環境と人に優しい栽培方法の開発 ～



〔吉村 人志さん〕

1 技術確立の背景(目的)

吉村さんが代表を務める(有)ワイルドプランツ吉村では、毎年100種類以上にもおよぶ多くの花きを栽培し、特に他にはない「ワイルドプランツ吉村オリジナル」にこだわりをもって生産を行ってきました。この豊かな栽培経験とオリジナルへのこだわりが新品种の開発と新しい作型の開発につながってきました。

2 技術概要(技術効果)

宿根草しゅっこんそう(アスチルベ、ワレモコウなど)において、株の低温処理による開花調節技術を独自に開発しました。

この技術により、アスチルベでは今まで国内確保できなかった秋冬期における供給、ワレモコウでは新たに抑制栽培が可能となるなど、これまでにはなかった時期に出荷したり、出荷期間を延長することが可能になりました。

また、従来宿根草では同一株からは、通常、年に1回の収穫でしたが、年2回の収穫も可能となり、生産性・収益性が大きく向上しました。

3 技術の地域への活用状況(普及状況)

○アスチルベの秋冬出し栽培での事例

吉村さんが開発したアスチルベの株冷蔵技術を用いて、長崎県佐世保市内では7名の生産者が産地化を図っています。

〔平成19年度、生産面積：約1ha  
出荷本数：82万本〕

秋冬期に市場で出回っている国内産アスチルベはほぼ独占的に佐世保市で生産しています。

しかしこれまで、この時期には市場に出回らなかった品目であるため、今後需要の拡大を図っていく必要があり、産地では市場における品目の周知や花屋など実需者に対する利用方法の紹介などを行っていく計画です。



〔上：冷蔵貯蔵の状況、下：株の植え付け状況〕

※最寄りの普及指導センター { 長崎県 県北農業改良普及センター  
住所：長崎県佐世保市吉井町大渡80  
TEL：0956-41-2033

## <「農業技術の匠」のポイント>

### 新しい作型の開発

宿根草の株を摂氏8度からマイナス2度（冷蔵時期や期間で調節する）の範囲で冷蔵することにより開花期をコントロールします。

#### (1) アスチルベ

- ・アスチルベの開花期は6月～7月の夏場にあたり、国内の産地は北海道などの高冷地に限られていました。
- ・吉村さんは、独自に株の冷蔵技術（摂氏6度で1週間順化処理を行った後、摂氏5度からマイナス3度で40から60日程度冷蔵し、その後摂氏6から8度で1週間順化処理を行う）を開発し、定植期をずらすことによって11月から6月までの秋冬期にアスチルベを出荷する作型を開発しました。
- ・この技術の開発により秋冬期は輸入品に頼っていたアスチルベの切り花を国内でも生産できるようになりました。

#### ※冷蔵技術の流れ

##### <アスチルベの新作型（基本型）>

11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
		∩									∩	加温	U			
◆	○							▽	◆		◎					
株分け	定植	ハウス被覆		開花			株掘上げ	株分け	予備冷蔵	本冷蔵	順化処理	定植	寒冷紗被覆	ハウス被覆	開花	ビニール除去

- ① 開花が終わり茎葉が枯死したアスチルベの株を掘り上げ、適当な大きさに株分けしたのち消毒する。
- ② コンテナ内でピートモスにより湿式貯蔵し、ビニールフィルム等で密閉する。
- ③ 摂氏6度で7日間予備冷蔵処理を行う。
- ④ 摂氏5度からマイナス3度の温度で40日から60日間本冷蔵を行う。
- ⑤ 摂氏6度から8度の温度で7日間順化を行う。
- ⑥ 出庫し、圃場に定植する。
- ⑦ 定植後は、寒冷紗（遮光率50%）被覆を2～3週間行う。

#### (2) ワレモコウ

- ・ワレモコウの開花期は品種にもよりますが、7月下旬から10月下旬であり、高温期にあたるため品質が良い高冷地産が高値で取引されています。
- ・吉村さんは、前年に開花した株を掘り上げた後、7月まで冷蔵貯蔵した上で植え付けを行う技術を開発しました。（アスチルベの冷蔵技術と同様ですが、上記④の本冷蔵の期間を延長します）
- ・この結果、高冷地の出荷が終わった11月から収穫ができるようになり、産地間の競合が回避され、暖地における生産体制が強化され、高値で販売ができるようになりました。